

# えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑭

本連載で過去に紹介した  
ことがある今治市の県内最  
大の前方後円墳「相の谷1  
号墳」からは2面の銅鏡が  
出土している。

1面は禽獣画像鏡(きん  
じゅうがぞつきょう)。径12  
1ニングの結果、新たに2

## 今治で出土 2面の銅鏡

### 鳥モチーフ 死生観表す?

・6枚)という中国後漢時  
代後期(2世紀後半)のも  
のである。鳥像と獣像をモ  
チーフにしており、約40片  
の破片で出土した。どの段

している部分は樹脂で修復  
した。  
銘文については従来「作  
竟真大」が判読されていた  
が、「氏」と「山」が新た  
に判読できた。その結果、  
「(龍?)氏作竟真大(巧  
上有)山(人)」という漢  
詩が銘文となっている可能  
性が浮かび上がってきた。  
鏡の銘文は七言句をつなげ  
るものが多く、類例から  
「(龍?)氏作竟真大巧上  
有山人不知老」の一部を省  
略したものと考えられる。

保存処理作業によるクリ  
ーニングの結果、新たに2  
面の銅鏡が出土した。その  
うち1面は、鳥像の表現が  
よく、もう1面は、獣像の  
表現がよいと判読された。

文字の銘文を判読すること  
が可能になることもに獣像  
の表現が明確になった。ま  
た、復元にあたっては割れ  
ていた破片を接合し、欠損



①画像鏡②獣紋鏡(古墳時代前期後半)＝ともに相の谷1号墳出土、県歴史文化博物館保管。テーマ展「今治平野の古墳文化」(~11月26日)で展示中

獣像の表現では、鳥像の  
羽根、くちばし、頭部、脚  
部と獣像の脚部の表現がよ  
り明確となった。  
もう1面は、鬘龍鏡(だ  
りゅうきょう)。径11・6枚)

専門学芸員・富田尚夫  
〈随時掲載します〉